

福岡貿易会情報誌
福岡ニュース

どうぞよろしくお願ひします。

福岡貿易会では、在福岡の各国領事館等の方々に特別会員としてご就任いただき、日頃から、当会の運営にあたって、多大なるご支援とご協力をいただいております。

今年に入って、各国の在福岡総領事も人事異動等により顔ぶれが変わっておりますが、今回、新たに着任された、オーストラリア、ベトナム、大韓民国の新総領事をご紹介します。

また、9月には、在福岡アメリカ領事館の新首席領事にユーリー・フェッジキフ氏が着任されましたので、次号でご紹介の予定です。



在福岡オーストラリア総領事

トム・イエイツ 氏 (平成25年1月着任)

○在福岡オーストラリア総領事館

〒810-0001 福岡市中央区天神1-6-8 天神ツインビル7階
TEL : 092-734-5055 FAX : 092-734-5058



在福岡ベトナム社会主義共和国総領事

ブイ・クオック・タイン 氏 (平成25年1月着任)

○在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館

〒810-0801 福岡市博多区中洲5-3-8 アクア博多4階
TEL : 092-263-7668 FAX : 092-263-7676



駐福岡大韓民国総領事

朴 鎮雄 (パク・ジンウン) 氏 (平成25年5月着任)

○駐福岡大韓民国総領事館

〒810-0065 福岡市中央区地行浜1-1-3
TEL : 092-771-0461 FAX : 092-771-0464

オーストラリアと九州

在福岡オーストラリア総領事館 総領事
トム・イエイツ



今年1月に着任して以来、福岡、九州の豊かな自然、食文化にとっても感動しております。福岡は世界でも数少ない、繁華街から電車で10分圏内に、日本最古の禪寺など有名な歴史的建造物がある祇園に行けます。

オーストラリアと九州のつながりはとても深いものとなっています。例にあげますと、最近では、9月に催された福岡アジア文化賞授賞式です。今年オーストラリア国立大学のテッサ・モーリス＝スズキ氏が学術研究賞を受賞しました。オーストラリアから受賞者が出たことは、本当に誇らしいことでした。

また、その数日後には、熊本日豪協会の設立40周年記念行事がありましたので、駐日オーストラリア大使と共に出席しました。そこで熊本とオーストラリアの太鼓や邦楽の競演があり、言葉の壁を越えた演奏にとっても感動いたしました。また、11月には佐世保日豪協会の30周年記念行事があり、再び大使と出席させて頂くことをとても楽しみにしております。

このように九州各地でオーストラリアと文化的つながりが長年続いており、それは人々のつながり、つまり草の根交流が支えているわけです。特に九州では、学校間の交流が長い間に渡って活発に行われていることは特筆すべきことです。

ビジネスにおいても、日本は重要なパートナーです。日本はオーストラリアにとって2番目に大きい輸出相手国であり、サービス・製品における2012年の輸出総額はおよそ500億豪ドルに達しています。一方、オーストラリアは日本にとって3番目に大きい輸入相手国であり、石炭、鉄鉱石、銅、LNG（液化天然ガス）、牛肉などが多くを占めています。日本にとってオーストラリアとの貿易関係といえば、どうしてもエネルギーや資源分野にかなり大きく依存していましたが、実は高度な最先端技術やビジネスサービスを世界に提供しているのです。そしてそれらの分野は今後日本でもさらに多くのビジネスを創出する可能性があることを、ぜひ読者の皆様にご存知いただけたらと思っております。良い例としては、オーストラリア人のイアン・フレイザー博士によって開発された世界初の子宮頸がん予防ワクチンです。現在では日本を含め、数多くの国で使用されています。先進国の中でも人口に占めるノーベル賞受賞者の割合が多いオーストラリアですので、“革新”を必要とされる際には、ぜひオーストラリアを思い出していただけたらと思います。

九州とオーストラリアの二国間貿易は、今や1兆円を超える規模となり、輸出額は90億豪ドルとなっています。石炭、鉄鉱石やLNGなどの我々の大規模

な輸出に加え、“安心・安全”を誇るオーストラリアの食品・飲料である牛肉、ラム、ワインなどが九州で人気を得ています。

九州は40年以上にも渡り、オーストラリアとの重要な貿易・投資パートナーであります。特にエネルギー資源において、我々は九州のエネルギー需要の25%の安定供給に努めてまいります。我々は九州電力、三井松島産業、新日鉄住金、商社各社などの九州を代表する企業との長年の関係を大切に思っています。

スポーツ大国として知られるようになったオーストラリアは世界各国のさまざまな場所でスポーツ産業に貢献してまいりました。ロンドンオリンピックでは、実に40を超えるオーストラリアの企業が活動し、実績を作りました。2020年の東京オリンピックに向けても、さらに多くの革新的なオーストラリアのビジネスソリューションをご提供できることを願っております。実際、2000年のシドニーオリンピックでは、世界初のグリーン・オリンピックとして、自然環境を守りながら、ソーラーエネルギー、水のリサイクルシステムを積極的に活用し、世界中から注目を集めました。

教育分野においても、オーストラリアはグローバル人材育成プログラムやリーダーシップ研修作りを積極的にお手伝いしております。日本企業をはじめ、大学や高校などの教育機関が必要とするオーストラリア研修を一緒に作り上げています。実際、毎年3万5千人の学生が日本からオーストラリアへ訪問しています。九州の各教育機関からも、学生のオーストラリア訪問は英語力向上だけでなく、異文化体験が個人の成長の場としてもとても有益であるとコメントをいただいております。

最後に、これからもわが国にとって重要な場所である九州で、ビジネス、投資、教育の分野において積極的に関わってまいりたいと思います。皆様とお目にかかりますことを楽しみにしております。



在福岡オーストラリア総領事館のスタッフの皆さん
左から 松本文仁（商務官） 中西知子（商務官） トム・イエイツ（総領事）
山口永里子（領事官・総務担当事務官） 加藤裕久（商務官）

経済・観光・文化の交流に貢献

在福岡ベトナム総領事館
ブイ・クオック・タイン 総領事



ベトナム総領事館は、2009年4月に福岡市に開設され今年で4年目を迎えます。

近年、発展を続けるベトナムと我が国は、経済分野だけでなく、観光、文化、教育など様々な分野での交流が活発化しています。

今年1月から総領事として赴任されているブイ・クオック・タイン総領事から、福岡の印象、今後の抱負などについてお聞きしました。

総領事は1962年生まれの51歳で、ご出身は首都ハノイ。ベトナム外交学院大学で国際法を学ばれた後、1987年からベトナム外務省に勤務され、台湾、ドイツ大使館等で勤務された後、今年1月から、2代目の在福岡総領事として赴任されています。

外国語は英語のほか中国語もご堪能で、ご家族は奥様とお二人のお嬢さまがいらっしゃいます。ベトナム在住のご長女は、総領事と同じ大学を卒業後、国際関係機関で活躍されているそうです。

日本を訪れたのは今年1月の赴任時が初めてとのことで、来日するまでの日本の印象は、工業製品が優秀であるなど漠然としたイメージしか持っていなかったが、来日後、たくさんのお祭りや行事などに参加して日本人とふれあう中で、好感の持てる国であることを実感でき、良い印象を持つことができたとのことで、古くからの歴史・伝統・文化がきちんと伝承されていることに深い感銘を受けたとのこと。また、東北の震災復興に取り組む多くの日本人の姿をみて、その努力に深い感銘を受けたとも述べられました。

趣味は旅行と食べることだそうです、既に忙しい合間を縫って九州全県を廻られたとのこと。九州は、どの県・地域でもそれぞれに素晴らしい魅力があり、自然が豊かであることに加え、食べ物も美味しく、特に温泉はお気に入りのご様子。好きな食べ物は、お刺身とラーメンとのことで、ベトナム本国から来訪者があつた際には、必ず新鮮で美味しい福岡のお刺身を食べに連れていくとのことでした。

博多の伝統的なお祭りである、博多どんたく・山笠は、間近で見物されたそうで、博多山笠の際には、深夜2時からカメラ持参で櫛田神社まで出かけ、祭りの熱気を直に感じることもできた様子。また、10月に行われる長崎くんちも楽しみにしているとのことでした。

また、今年、日越国交樹立40周年とハノイ・福岡の協力関係締結5周年の年にあたることを記念して、九州国立博物館で大ベトナム展を開催したほか、

ベトナム関連のフェア、セミナー、フォーラムなどを実施し、どれも大いに盛り上がることで大変感謝しているとのことでした。

教育分野での交流では、今年度末に福岡の4つの高校から約1,000人の学生がベトナムへ訪問し、現地の高校生と文化交流を行うことも決定しており、大学レベルでも、大分や長崎の大学が学生の交換留学を活発に行っていることから、領事館としても相互交流をより一層促進するよう、支援を続けたいと考えているとのことでした。

また、観光分野でも交流は活発化しており、来年には福岡の観光プロモーションがベトナムで開催できないか検討中で、今後とも、経済、観光、文化、教育など各分野での両国間の交流がさらに活性化するよう支援したいと述べておられました。

最後に総領事から、「これまでの日越交流40年の間、両国が様々な活動を通じて良い関係を築き上げてきたことから、両国民がお互いをずいぶん身近に感じられるようになってきていると思う。これまでの4年間、総領事館に対して福岡の多くの皆さんから様々な支援をいただいたことに対して改めて感謝申し上げるとともに、今後とも総領事館として、両国の友好・経済発展に貢献できるよう努めたいと考えている。引き続きご支援をよろしくお願ひしたい。」とお話がありました。

当会からは、今後ますます注目されるベトナムとの経済交流、ビジネスの拡大にあたって、総領事館の更なるご支援をお願いしました。



在福岡ベトナム総領事館のスタッフの皆さん
左から ゲン・ティン・フイさん、ヴー・ヴァン・ツォン副領事、
ゲン・ティ・ガーさん、ブイ・クオック・タイン総領事、
ゲン・ヴェト・ドク副領事

肥沃な土壌において 韓・九州経済交流の花が 満開になることを期待して

朴 鎮雄

駐福岡大韓民国総領事
朴 鎮雄



16年ぶりに再び福岡にて

今年5月29日付で駐福岡大韓民国総領事館の総領事として赴任いたしました朴鎮雄です。どの経済団体よりも韓国と密接な交流協力関係にある福岡貿易会の会員皆様に、本紙面をお借りしてご挨拶できることを嬉しく思います。

私は1998年から2000年まで約2年6ヶ月の間、福岡総領事館で経済担当領事として勤務しました経験があり、九州地域の経済関係の皆様には、格別な親しみを持っております。

赴任しましてからの約4ヶ月間は、北九州から鹿児島まで九州のあちらこちらをご挨拶として訪ね歩き、管轄地域の状況を把握するため大粒の汗を流しました。九州新幹線の開通により福岡から鹿児島までわずか1時間半で移動できるなど、16年前とは異なる大きな変化も感じましたが、九州の方の温かい人情は、昔も今も変わらないと感じることができた4ヶ月でした。

一層発展していく韓・九州経済関係

私が勤務しました90年代末と比較しますと韓国と九州の貿易額は二倍以上に拡大しました(1999年7,335億円、2012年15,379億円)。

また、LCC、高速船などの追加参入により、九州と韓国は事実上、一日生活圈を形成(航空便:11路線、週149便、海上旅客便:3路線、週51便)することになり、九州を訪れる韓国観光客が70万人に肉迫(九州を訪問する外国観光客の52.6%、対日韓国観光客の44%、2012年基準)するなど一般の人々の交流もますます拡大しております。

それとともに、中央政府、地方自治体、民間など多様な経済協議体を運営することにより、日本の他地域と比較しましても遜色ない経済協力インフラも備えることになりました。特

に、釜山市と福岡市は、2008年から超広域経済圏事業を推進しながら地域協力のモデルを具体化しており、今後その他の経済協議体の活性化への起爆剤的役割を担うと期待されています。

このような韓 - 九州間経済協力の成熟化を基に昨年10月15日より韓 - 日間で相互走行が可能な被牽引トレーラーを利用し、釜山から九州地域まで自動車部品を直接輸送するという代表的な物流革新の事例も出現しました。

福岡貿易会が韓・九州の経済協力拡大の牽引車になることを期待

福岡県地域が九州内の対韓貿易額の70%以上を占有(輸出75.4%、輸入39.8%、2012年基準)していることでも分かるように、福岡貿易会はその間、両国の経済発展に大きく寄与されてこられました。本紙面をお借りして感謝申し上げます。

但し、貿易の活性化に比べ、両国企業の相互進出・投資は相対的に不十分なのが事実です。九州地域企業の韓国進出は年間1~3件に過ぎず、九州に進出する韓国企業も旅客会社、ゴルフリゾートなど観光関連業を除けば微々たる状況です。韓国側の産業インフラが福岡県と近い東南圏に集中しており、福岡貿易会の皆様がお関心をお持ちいただければ、相互投資・進出の潜在力は無尽蔵だと考えます。福岡地域にて東南圏をはじめとする韓国側の投資説明会がしばしば開催されていますので、福岡貿易会の会員皆様の積極的な関心をお願い申し上げます。私も九州に韓国企業が多数進出できるよう最善を尽くします。

韓国との経済協力に支障があるなど、援助が必要な場合は、いつでも私たちの総領事館を訪ねてください。韓国貿易センター福岡などと連携し、積極的に支援いたします。

夜間の語学講座が好評です

福岡貿易会で開催中の夜間の語学講座が好評です。今年も春から中国語、韓国語の講座を実施していますが、会員の皆様のご要望に応え、今年から新たにビジネス英会話講座(初級編~中級編)を開催しています。



受講生の皆さんは日々の忙しい仕事の合間を縫って参加。ビジネスの現場で役立つフレーズやコミュニケーションのコツなどについて熱心に学んでいます。また、語学習得だけでなく受講生同士の異業種間の交流も盛んです。関心のある方、興味はあるが不安のある方...まずは見学だけでも可能ですので、一度参加されてみては?お待ちしております。



「英文売買契約書の基礎知識セミナー」を開催

9月5日(木)、6日(金)の2日間の日程で、海外取引契約書の交渉・作成担当者を対象とした「英文売買契約書の基礎知識セミナー」を開催しました。

講師は、幅広い貿易実務や外為取扱業務の経験をお持ちで、商社・企業等で貿易実務講座を中心に行っておられる(株)アースリンク代表取締役・貿易アドバイザーの曾我しのぶ氏をお招きし、ご講義をいただきました。

初日は、契約書条項に出てくる貿易実務の基礎知識を復習し、英米法の考え方やウイーン売買条約の考え方を整理しました。2日目は、実際の英文契約書をもとに、輸出と輸入の印刷条項を読み、なぜ、その条項が必要なのかを実務



的な観点から講義いただきました。

参加者からは、「実例を踏まえた講義内容でとてもわかりやすかった」「実務上での疑問点が解消された」「契約書文言の背景がよく理解できた」などの声が聞かれ、大変好評でした。



第一回理事懇談会を開催

今年度第1回の理事懇談会を9月13日(金)に、福岡商工会議所ビルで開催しました。

この懇談会は、年2回開催予定の理事会とは別に、情報共有や意見交換を主な目的とした、定足数等の制約を受けない会議体として今年度から新たに発足したものです。

協議された主な内容は次のとおりです。

- (1) 平成25、26年度の海外経済視察団の派遣について
- (2) 会員の増強について
- (3) 公益法人移行に伴う今後の会のあり方について

海外経済視察団について、今年度後半や26年度の派遣先などについて意見交換を行い、ハラルを切り口にマレーシア等のイスラム圏へ派遣してはどうかとの意見や、他の経済団体が実施している視察団との差別化を図るべき等の意見が出

されました。

また、会員増強と会の今後のあり方について、事務局から提案(会員満足度の向上のため、会の運営に対するアドバイス、アイデア・情報の提供等を行う会員参加型の組織、グループを新設したい)が行われました。参加者からは、これまでの会の広報活動は不十分で会の活動が広く一般には周知されていない、会員企業の実務者同士の交流の場を創設して欲しい、会員の入会動機は様々でありニーズの把握や会員満足度の向上に向けた取り組みを絞り込むのは難しいのでは・・・等の意見が出されました。今回の事務局提案へのご意見も踏まえ、今後、会員満足度の向上のため、会員参加型の組織の創設に向けて事務局から各会員に参画を呼びかけていくこととしました。

とかつていう船が沈んだらしいですよ。地元の人らが随分、献身的に助けてあげたそうですけどね」と。

「昔っていつ頃ですか?戦後ですか?」

「いやいや、もっと前、明治…くらいじゃないですかね。」

それを聞いて、私は反射的に叫んだ。

「明治…船…トルコ…、あ、エルトゥール号事件か!」と。

*

この日、私は和歌山県南部、いわゆる南紀と呼ばれる地域からの帰途にあった。ちょうど折悪しく、電車が不通になっているとかで、やむなく、海岸線に一本しかない一般道をタクシーで移動することになったのだが、運転手氏は、元々、あまり能弁なタイプではないらしく、聞かれたことはきちんと懇切丁寧に答えてくれるものの、あまり、自分から積極的に話しかけるタイプの人ではないようで、道中、適度な沈黙を交えながらの旅となった。その状



態でしばらく走った頃、左手に島が見えてきた。

大島という島で十年ほど前に橋が繋がったとのことであり、付近に奇岩などあることからこちらの観光名所となっているようだったが、離島が橋で繋がるといふこと自体は今時、別に珍しいことでもなく、聞くとともに聞いていたのだが、そこがエルトゥール号遭難事件の現場であることを知ったことで、俄然、感慨を新たにした。

*

エルトゥール号事件とは明治二十三年(一八九〇年)九月十六日夜半、訪日から帰国途上にあつたオスマン帝国軍艦エルトゥール号が折からの台風による強風にあおられ座礁、水蒸気爆発を起こし沈没、提督を含む五百名以上の犠牲者を出すという惨事となった海難事件である。このとき、多くの地元民が献身的にトルコ人乗組員の救助保護に当たり、後に、生存者は日本の軍艦で送り返された。やがて、この事件は日本では忘れ去られていったが、トルコでは教科書にも載るなど、現在のトルコ人の親日意識を高める契機となったと言われている。

事件自体については私も知っていたものの、場所については、太平洋沿岸のどこか…という程度の認識で、それが和歌山県津波だということには思いが及んでいなかった。それが、つまり、現在の和歌山県串本町沖にある紀伊大島の檜野埼東方海上なのである。しかも、後で調べて知ったことだが、その日は平成二十三年九月十六日であり、エルトゥール号が遭難したのは明治二十三年九月十六日。明治と平成の同年同月同日、百二十一年前のその日であった。あるいは、その時、島では慰霊祭が執り行われていたのかもしれない。

このときは、残念ながらその翌日の朝に、私が講師を務める講演の予定が入っていたこともあって、何としても当日中に博多に帰り着かなければならなかったことから、乗り継ぎの電車の時間等々のことを考えると道草して島に渡ることは断念せざるを得ず、折からの垂れ込めた重い雲と打ち寄せる波の荒さにも、往時の悲惨な光景を重ね合わせるしかなかった。

なお、実をいうと、私がこの事件を知ったのは十年ほど前、インターネットのホームページを見てからで、そこにはこの事件の経緯とともにロシアのロマノフ朝の圧迫を受けていたトルコ人が日露戦争の結果に歓喜したことや、昭和六十年(一九八五年)のイラン・イラク戦争時、取り残された在イラン邦人二百余名がエル

トゥールル号の恩返しとして、トルコ政府派遣の航空機によって救出されたという話も載っていたことも併せて白状しておく次第ある。

*

南紀より戻って一ヶ月あまり後の十月末より十一月初めにかけて、私は福岡貿易会「イスラエル・トルコ経済視察団」の一員としてイスラエル・トルコ両国に行く機会を得た。実は両国は私にとり、かねてより是非、一度足を踏み入れてみたいと思っていた地であり、話を聞いてすぐに、「色々制約はあろうが万難を排してでも行かねばならぬ」と決めた。その意味では念願が叶った大変、意義深い旅であった。

まず、私が両国に興味を持った端緒は四半世紀ほど前、それぞれの国を代表する二人の人物について興味を持ったことに始まる。独眼竜ダヤンと満点アタチュルクである。その話に移る前に今少し、両国の日本との因縁浅からぬ関係について述べてみたい。

*

視察中、イスタンブールの日本人会との会食で話が出た中に「山田寅次郎」という名前が出た。私は、あいにく、この人物の名前は記憶してなかったのだが、この人の偉業については「そういう人がいた」という程度には知っていた。もちろん、これも何かのテレビ番組か何かで見て知った程度であり、「存在を知っていた」以上の何物でもないのだが、この人物はエルトゥール号の遭難事件の後、義捐金を集めることを思い立ち、二年をかけて日本中で演説会をしてまわり、そこで集まった多額の寄付(現在の貨幣価値では一億円にも相当すると言われる。)を携えて、明治二十五年(一八九二年)、自らイスタンブールに渡ったことで知られる人物である。

なぜ、山田についてこれといった知識もない私がこの話をここで採り上げるかと言えば、実は私はこの件について多少、見知った名前があったことによる。と言っても、無論、山田ではない。山田がイスタンブールへ行くきっかけを作った人物である。

山田が自らイスタンブールに渡航することを決断した背景には、時の外務大臣である青木周蔵を訪問し、義捐金の送付を依頼した際に、青木より、「君が自ら集めた義捐金なのだから君自身が届けるのが良からう」と勧められたことによるという。実は、私はこの数か月前、仕事で栃木に滞在していた折にこの青木周蔵という名前に触れる機会を得ていた。

会員便り

「平成二十三年 晩秋 イスラエル・ トルコ紀行 ①」

個人参町ホーム 代表取締役

池田 憲和



一、エルトゥール号遭難事件

平成二十三年九月十六日。その日、私はとりとめもなく、流れゆく車窓の中に広がる海を眺めていた。明け方より降り出した雨も幾分晴れ間が見えてきていたものの、まだ少し降っているのであろう、空にはどんよりとした雲が垂れ込めている。

タクシーの後部座席に揺られ、そういう状態で二時間近くが経った頃だっただろうか、なかなか口が重い運転手氏が珍しく自分の方から口を開いた。

「向こうに見える島が大島と言って、あの島の一番左の突端の辺り、あそこで昔、トルコの何

上海通信

—上海の商業施設オープンラッシュについて—

9月末、高島屋百貨店は上海で会見を行い、昨年末に開業した上海高島屋の初年度売上について、当初目標額であった130億円を大幅に下方修正し、50～60億円になるとの見通しを発表しました。会見では日中間の政治問題の影響が売上不振の原因であるとのことでしたが、現地に住んでいる実感としては単純にそこだけが問題ではないように感じています。

上海では百貨店、ショッピングモールの出店ラッシュが続いています。昨年REEL、高島屋が開店したのにつづき、今年は尚嘉中心（LVビル）、K11、グローバルハーバー、静安ケーターセンター、環貿iapmがオープン、10月末にはレーン・クロフォードもオープン予定、また2014年には南京東路の歩行者天国に上海新世界城と大丸松坂屋連合による超巨大百貨店が出来上がるそうです。

上海商業信息中心によると2012年の百貨店単体の売上げ上位5店は、第一ヤオハン（現在は百聯グループの傘下）、上海新世界城、久光百貨（元香港そうこう系列）、東方商厦旗艦店、第一百貨商店となっています。他にも太平洋百貨店、プラザ66等上海の各商業圏には集客力のある施設が数多く立地しています。

1992年には400万平方メートルだった上海の商業施設の面積ですが、2010年には4,000万平方メートルを超えており、1人当たりの商業施設の面積も2平方メートルを突破しました。これは世界的な商業都市であるロンドン、パリ、東京、ニューヨークをはるかに上回る数値です。しかしながら1人当たりの収入でみると上海はまだまだ上述4都市には及んでいないのが現状です。これに合わせて近年では中国でもネットショッピング市場が非常に伸びており、実店舗の競争は非常に厳しい状況に晒されていることがわかります。

中国全土でショッピングセンターを展開しており2013年の中国長者番付でも堂々1位に君臨している大連万達グループの会長である王健林氏は2012年度中国



上海代表処 所長
榊原 英明



経済アワードの受賞式の中で、中国最大のネットショップ“淘宝”を展開するジャック・マー氏に対しこう言ったそうです。「ネットビジネスがいかに発展しようと足つぽマッサージや耳かきなどのサービスをネットで提供することは不可能である、私はジャック・マー氏と賭けをしたい、10年後ネットビジネスが小売業全体の50%以上を占めていれば私は彼に1億円を贈呈する、そうならないければ私は彼から1億円をもらうことにする。」これに対しジャック・マー氏はネットビジネスが必ず勝つと静観しているとのこと。

こういった現状の中で勝ち残っていくにはこれまでと同じ店舗展開では難しく、特徴のある店舗作りが必須です。今年オープンした各施設はそれぞれの個性を前面に出しています。尚嘉中心はLVMHが投資していることに加え、Dior、LOEWE、BURBERRY等高級ブランドで統一感を出し、消費能力の高い女性層をターゲットに絞っています。K11には4冊の小冊子が置かれています。1冊目はショッピングガイド、2冊目はレストランガイドと一般的ですが、残り2冊は「芸術指南」「K11学院」となっています。K11ではB3フロア全てが芸術フロアとなっており、各種展示会、芸術家同士の交流会等が行われており芸術に興味のある消費者に訴えかけています。また、K11学院では主に女性にターゲットを絞った各種講座を定期的に開設しています。グローバルハーバーは総面積48万平方メートル、ショッピングゾーン32万平方メートル、屋上緑化3万平方メートルと桁外れの大きさで他との違いを出しており、観光スポットとして開業以来多くの人を引き付けています。こうした中で既存の商業施設のスタイルを踏襲している高島屋が苦戦を強いられていることも納得できます。今後PRの強化や入居テナントの再構築を図る等の計画もあるとのことですので、今後持ち直してこの上海百貨店競争で勝ち組となることを心から期待しているところ。

一方、世界展開を進めているユニクロがこの9月末、上海の高級ブランド街である淮海路に世界最大のフラッグシップ店をオープンしました。元々この場所は国营の永新百貨という老舗百貨店でした。これは上海の百貨店時代の終わりの始まりなのかもしれません。



新会員のご紹介

新日本製薬 株式会社

代表者：代表取締役社長 後藤 孝洋
所在地：〒810-0047 福岡市中央区大手門一丁目4-7
TEL:092-720-5800 FAX:092-720-5808
URL: <http://corporate.shinnihonseiyaku.co.jp/>



主要業務：化粧品・健康食品・医薬品の製造販売業及び通信販売事業を中心に、店舗販売事業、海外事業、国産生薬の生産事業を行う。

当社の特色：オールインワン美容液ジェル「ラフィネ パーフェクトワン」を中心に様々な商品を展開。お客さまの美と健康をトータルにサポートする「かかりつけ薬局」をダイレクトマーケティングで実現することをめざし、『One to One health & beauty-care.』をコミュニケーションメッセージとして掲げ、お客さま一人ひとりにあった商品やサービスの提供を行っている。
また、国産生薬の生産事業にも力を入れ、山口県岩国市にある岩国本郷研究所では、漢方薬の主原料となる薬用植物の栽培・研究を進めている。全国の地方自治体と連携し、薬用植物の一つである「甘草」の国産化をめざした試験栽培を行う一方、2013年4月には、県域を超えた連携組織として「全国甘草栽培協議会」が設立。各産地に応じた栽培技術確立、国内における安定生産・安定供給体制の構築に向けた活動を行う。

その他：「社会や地域の為に役立つことこそ、企業の果たすべき使命である」という思いのもと、「スマイルプロジェクト・ワン」「エコプロジェクト・ワン」を軸にさまざまな団体と協力し合い、積極的に社会貢献活動を行っている。カンボジアの希望小学校運営支援や飲酒運転撲滅推進活動など、人と人とのつながりを大切に、笑顔の輪を広げる活動や、美しい地球を未来の子ども達へ受け継ぐための環境保全活動に取り組んでいる。

株式会社 極東フーズコーポレーション

代表者：代表取締役社長 粥川 昌洋
所在地：〒810-0011 福岡市中央区高砂一丁目7-4
TEL:092-526-2000 FAX:092-526-2220
主要業務：飲食店経営「ミスタードーナツ」

・イオンモール香椎浜ショッピング ・フレスタ香椎ショッピング ・博多1番街ショッピング
・博多ステーションショッピング ・ライフガーデン新宮中央ショッピング ・ノース天神ショッピング 他

株式会社エヌケイテクノス

代表者：代表取締役 中村 一夫
所在地：〒812-0857 福岡市博多区西月隈三丁目1番30号
TEL:092-477-8621 FAX:092-477-8623
Mail: mainoffice@nk-tech.co.jp URL: <http://www.nk-tech.co.jp/>

主要業務：・半身浴機「ボスヴィ」(PSE取得)の製作・販売
・各種プラント設備における電気計装設備の設計・施工及び工事管理
・自動搬送設備の点検保守及び改造工事 ・畜産副産物処理施設設備の設計・施工・改造

当社の特色：電気工事・点検保守などの建設業界だけでなく、美容健康に関する分野への展開をしていく中で今回、半身浴機「ボスヴィ」の製作・販売を通じて国内だけでなく海外へ目を向けてグローバルな会社へと変化しつつあります。

その他：国内で販売しておりました半身浴機「ボスヴィ」を国外への販売へと展開するにあたって、色々と勉強するために福岡貿易会へ入会させていただきました。現在は中国での販売に力を入れ、販売代理店なども視野に入れ展開していきたいと考えておりますので、興味のある方はお気軽にご連絡ください。



人事短信

(平成 25 年 2 月)
○ 台湾貿易センター福岡事務所
所長 林 淑恵

(平成 25 年 7 月)
○ 門司税関長
今野 孝一
○ 門司税関博多税関支署
支署長 小橋 博文
○ 門司税関福岡空港税関支署
支署長 田中 洋一

(平成 25 年 8 月)
○ 大韓貿易投資振興公社韓国貿易センター(福岡)
館長 金 性煥
○ 日本貿易振興機構福岡貿易情報センター
所長 野村 邦宏

(平成 25 年 9 月)
○ 在福岡アメリカ領事館
首席領事 ユーリー・フェッジキフ

Offer #1:[firm offer] と [subject to~] の意

末次通訳事務所 代表 末次 賢治

Hi there! Last time, I gave you this assignment to check to see if you fully understand this sentence: 前号課題【Please open your irrevocable L/C not later than Oct.1st,2013】/ 英語表現でnotがない、later than Oct.1ですと、thanの次の[Oct.1]は勘定に入れず、[10月2日以降]の意です。ですが、[not later than Oct.1]ですと、notがある為、「10月2日を過ぎてはならない」即ち、「取消し不能信用状を開設下さい。2013年10月1日迄に」の意。貿易取引での英語の折衝では、数字の英語表現を正確に理解する事が必要です。

過日、輸入担当の新入社員から質問有り。売主からのofferの一文です:[We are pleased to offer you firm subject to your acceptance reaching us by Oct.20 as follows:] 経験があればお分かりでしょう。質問者は初めてこうした文を目にしたとの事です。[offer you firm]とありますから、「貴社に弊社(会社)を売却する」と理解したそうで、それが元になり、話が誤解のまま進んで取引にならなかったという事です。笑い話みたいな実話です。[offer you our firm]とあれば企業売買の話になるでしょうが、上記の[offer you firm]は、いわゆる「確定オファー」ですね:このfirmとは、「キッパリと」、「確定分として」との副詞。「確定オファー」とは、売り手が【買い手からの承諾回答期限と共に取引条件を示して、

買い手と当該の条件でお取引をしたい】との申し出の意です-ここで大切な事は<買い手から期限内に発注があれば、売り手は提示した条件に基づいて当該商材を販売する義務が生じます>★確定offerの義務事項ですね。

上述文の意:We are pleased to offer you firm (→弊社は謹んで確定オファーを貴社へ呈し)subject to your acceptance reaching us by Oct.21,2013 as follows. (→条件は貴社からの承諾回答が弊社に2013年10月21日までに必着をその条件とします。提示内容は次の通り);※[subject to ~]とは、「~の事項を条件とする」の意です。[-subject to your acceptance]で、「貴社の承諾が条件で」、しかもそれが、[reaching us by期限:期限迄に弊社に到着する事]ですね。

offerには複数種類が有り。次の英文はどんな意でしょう?[We have received a number of inquiries for this item and cannot hold this offer open indefinitely, and so we like to offer this item subject to being unsold.]【subject to being unsold】とは、【対象商品が未だ売れていない事を条件(前提)】に、買い手に提示するのですね。つまり、当該商品が他に売れば、このオファーは終了します。即ち、「先売り御免オファー」です。

★お尋ねは何なりと! See you next time! Thank you!!

福岡貿易会からのお知らせ

年末の会員交流会・参事会のご案内

以下のとおり会員交流会・参事会を行います。今年は、高島宗一郎福岡市長をお招きし、ご講演をいただきます。

- ①日時…12月4日(水) 16時~参事会
17時~講演会(高島市長)
18時~会員交流会(立食形式)
- ②会場…西鉄グランドホテル
(福岡市中央区大名二丁目6-60 ☎771-7171)
- ③会費…7,000円(参事会、講演会は無料です)

今後開催予定のセミナー

※予定につき変更の場合があります

会員以外の方の受講も可能です。お問い合わせ、お申し込みは、福岡貿易会(☎452-0707)へ

○輸出入金融セミナー応用編

貿易取引と外国為替、代金回収リスクの回避、中国との代金決済 など

- ①日時 11月14日(木) 10:00~17:00

- ②会場 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室
(博多区博多駅前二丁目9番28号)
- ③講師 (株)アースリンク代表取締役 曾我しのぶ 氏
- ④受講料 会員2,000円 一般4,000円

○貿易リスク管理セミナー

~ケーススタディで学ぶ実務のリスクとポイント~

インコタームズの留意点、外為法に基づく輸出の法規制、課税価格の決定と評価申告、紛争の解決方法、信用状取引の問題点 など

- ①日時 11月15日(金) 9:30~16:30
- ②会場 福岡商工会議所ビル B1-a会議室
(博多区博多駅前二丁目9番28号)
- ③講師 (株)アースリンク代表取締役 曾我しのぶ 氏
- ④受講料 会員2,000円 一般4,000円

○貿易実務講座実践編 ※ジェトロ福岡と共催

- ①日時 平成26年1月16日(木)~17日(金)
9:30~16:30

- ②会場 未定
- ③講師 (株)アースリンク代表取締役 曾我しのぶ 氏
- ④受講料 未定

●発行/公益社団法人福岡貿易会 ☎812-0011 福岡市博多区博多駅前二丁目9番28号7階

☎092(452)0707 FAX 092(452)0700
上海代表処 上海市淮海中路398号 博銀国際大廈9楼B2
☎86-21-6385-8815 FAX 86-21-6385-8806

●発行日/平成25年10月31日

●印刷/株式会社西日本高速印刷